

教職員研究チーム活動状況報告書

代表者の所 属・職・氏名	西脇市立比延小学校 職・氏名 主幹教諭 遠藤 行博	研究チーム名 (日韓・日朝歴史認識研究会)
-----------------	------------------------------	----------------------------

研究テーマ分類番号 (14)

(1) 研究テーマ	
日本と朝鮮・韓国との歴史的な関係について、歴史認識の違いを知り、互いの歴史観を理解し尊重することで将来にわたって、よりよい関係が築けるために必要な歴史教育のあり方の追究	
(2) 研究経過及び具体的な取組	
5月17日	日韓学術ワークショップ参加について、主題と役割分担を協議 場 所：神戸市中央区・ラッセホール 内 容：「壬辰倭乱（文禄・慶長の役）」と「韓国併合」の二つの主題について教科書の記述を中心に発表する。
6月18日	壬辰倭乱と耳塚に関する学習会に参加 場 所：神戸市長田区・ピフレ 内 容：当時の朝鮮と日本の火器（銃）の違い。 耳や鼻を送った証文から壬辰倭乱を見る。
7月26日	ワークショップでの発表原稿を読み合う 場 所：神戸市中央区・ラッセホール 内 容：「壬辰倭乱」は、日韓によって名称が異なる点、地域教材を交えて指導した実践例、総合学習への発展などの視点で発表する。 「韓国併合」は日本の教科書の過去30年間の変遷から、日本政府の姿勢・歴史観を読み取り、それが日韓関係にとって好ましくない方向であることを警告する。現場の教師が多忙化の中で、自らの歴史観が持てない実情も指摘する。
8月 3日	古代の渡来人と倭国の文化についての講習 場 所：京都市上京区・京都韓国教育院、広隆寺、下鴨神社 講 師：韓国教育院院長 内 容：渡来人秦氏と京都の関係についての講話。 渡来人の功績を認めたくない考えの人による文化財破壊の事跡を見学。
8月24・25日	日韓歴史教育学術ワークショップ 場 所：韓国天安市・独立記念館 内 容：日韓両国の小学校教師による歴史教育に関するシンポジウム 成果と課題： ・韓国国内での歴史教育の問題点（自国中心の歴史観、日本が悪者で韓国が被害者という固定概念の見直し）を知ることができた。 ・朝鮮との関わり部分を削減する一方の日本の教科書のみで授業をしている教師が、自分の歴史観を持てるようにすべきである。